

教育新報

新大教育学部同窓会
第 171 号

発行人 白 杵 勇 人
事務局 新潟大学

教育学部内

TEL(025)263-6760

印刷所 (株) 文 久 堂



同窓会活動の充実発展を目指して

会長 白杵 勇人

日ごろより同窓会活動に御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。皆様方のお蔭で、平成二十七年度に計画した諸活動を無事終えることができました。本当にありがとうございます。

平成二十八年六月十一日の評議会の開催にあたり、教育学部長の鈴木賢治様の御臨席を賜り、本年度の活動の重点や各部の活動、予算案等を承認していただきました。教育学部同窓会は、昭和三十一年十一月二十五日、長岡市公会堂で発会式を挙行し、「会員相互の親睦と資質向上を図り、母校の発展に寄与すること」を目的として歩み続け、六十二年目を迎えました。会員の皆様をはじめ、歴代の会長、諸先輩方が築き上げてこられた長い歴史と伝統のある同窓会活動の充実と発展を目指し、微力ではありますが、本年度も同

窓会長として精一杯務めていただく所存ですので、御理解と御協力を心よりお願いいたします。

さて、平成二十八年度は、待望の教職大学院が設置され、実践的指導力を養おうと十九名の院生でスタートを切ることができました。うれしい出来事の反面、鈴木学部長様から教育学部系の国立大学改革と財政面の厳しい現状を紹介していただきました。

まず一つ目は、新課程の廃止です。本年度で募集を終了し、来年度から百五十名減、二百二十名の教員養成のみの募集となります。

二つ目は、大学院修士課程の廃止が迫っていることです。教科の質が低下するばかりでなく、専門性を生かすことがとても難しくなります。

三つ目は、附属学校の整備が進めら

れていることです。全国に四百八十五ある附属学校を二百二十、約半分に減らし、整理統合する方向にあるそうです。鈴木学部長からは、高度教員養成を担うこと、現職教員の研修の充実、そして教職大学院の充実などを推し進める上で「是非とも同窓会の力を貸してほしい」と懇願されました。少子化による学生数の減少と厳しい財政面の波がわが母校にもじわじわと押し寄せてきていることを是非とも皆様に知っていただきたいと思います。

最後になりますが、本年度の活動では是非とも皆様に御参加いただきたいことを二つお願いします。一つ目は、「同窓生の集い」への参加です。前新潟市教育委員会教育政策監の伊藤充様から御講演いただくことになっています。

二つ目は、「全学同窓会交流会」への参加です。本年度、教育学部が交流会の企画・運営を担当することになっています。是非とも大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

母校である新潟大学教育学部がより充実発展していけるよう、直接的に学部や学生に支援していくことはもちろんですが、広報活動やホームページの充実、支部や学科の組織の充実と強化を図り、同窓生同士の親睦と母校の発展に寄与する同窓会活動に御協力をお願いいたします。

花鳥風月

少し前の話になるが、ある予備校で講師をしていた林修先生が発した言葉「いつやるか？今でしょ！」が二〇一三年の新語・流行語大賞の年間大賞の一つに選ばれたことを覚えている方も多いと思う。今やテレビ番組のMCとして林修先生をよく拝見するようになった。

この言葉が流行した時、今では遠い昔になるが、高校の関西方面への修学旅行を思い出す。京都の大徳寺大仙院を拝観した際、ある言葉が目にとまり感銘を受けたことを鮮明に覚えている。そこには当時の尾関宗園住職の『今こそ出発点』と題した言葉が掲示しており、「人生とは毎日が訓練である（中略）わたくし自身の将来は今この瞬間ここにある。今ここで頑張らずにいつ頑張る」と書かれている。

「いつやるか？今でしょ！」は勉強に特化した表現だと思うが、この二つの言葉には相通じるものがあると感じる。それは、月日が過ぎても、人生の意味や生きていくことの本质というのは変わらないのだということではないか。

この『今こそ出発点』を座右の銘としてきたつもりだが、退職後もこの言葉を噛み締めて、第二の人生を送りたいと思う。

(広報部 金子 公義)

評議会の報告

六月十一日(土)、新潟教育会館を会場に、鈴木賢治教育学部学部長様、顧問の斎藤寿一郎様を来賓に迎え、同窓会の評議会が開催された。

評議会後に支部長会、学科代表者会が行われた。

評議会では、平成二十七年年度会務報告・会計決算報告があり、二十八年年度本部役員が承認された。続いて本年年度の活動の重点と各専門部の活動計画、予算案の提案があり、いずれも全会一致で承認の運びとなった。

冒頭、臼杵勇人会長から、来賓をはじめ各支部長、学科代表者へ感謝の言葉があった。

また、今年度は大学で教職大学院がスタートしたことを会員に広報するとともに、より一層大学との連携を進めながら、同窓会としてできる支援について考え、活動を充実させていきたいという明快なお話があった。

また、全学同窓会の交流会を教育学部同窓会が企画と運営を担当することもあり、多くの方々から出席いただき、成功させるよう協力を依頼された。



祝辞 鈴木賢治学部長

続いて、鈴木賢治学部長様からご祝辞をいただいた。教育学部では、教職大学院が設置され、十九名が入学して、現職教員と学生が学校課題を解決するために共に学び合う体制にしてスタートしたことなどのお話をいただいた。

また、全国的な文教政策の中で進む学部改革は、今後、学生数の減少を見据えて取り組んでいかなければならぬため、これまで以上に同窓会の支援をお願いしたいと締め括られた。

その後、会長から二十八年年度の活動の重点が示された。

二十八年度活動の重点

教育学部同窓会のよりよいあり方を求めるとともに、大学との連携を重視しながら同窓会活動の一層の充実を目指す。

一 「同窓生の集い」の充実

- ・内容を講演会とする。
- ・学科を中心とした絆強化の機会とする。
- ・できるだけ大勢の参加を目標に、講師、会場、時期を検討する。



評議会の様子

二 広報活動の充実

- ・より親しまれる「教育新報」を目指す、内容の充実を図る。大学との連携の観点から、大学院・教職大学院の情報も掲載する。

- ・会員への情報提供及び情報交換の場として、ホームページの活用を図る。

三 組織の充実と強化

- ・県外の同窓生同士のつながりを支援する。(同期の会への補助)
- ・各部の事業や各支部の活動を基に会員の帰属意識の向上を図る。

四 大学との連携

- ・母校発展のための支援を推進する。(大学改革、新課程、教職大学院)
- ・学部教官の同窓会活動への参加を働きかける。

五 全学同窓会との連携

- ・平成二十八年年度の全学同窓会交流会を推進する。(企画・運営担当)
- ・全学同窓会賛助会費の周知を図る。
- ・「新潟大学カード」の加入者・利用者を増やす。(周知を図る)

新潟大学カードの申し込み先

新潟大学全学同窓会事務局

☎ 025 (262) 7891

025 (262) 7892

(広報部長 本間アユ子)

平成二十八年度

専門部活動計画

◆ 研修部 ◆◆◆◆◆

部長 渡辺 真也

一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人間的な資質を高めることを目的に本年度事業を以下のように計画いたしました。多数の皆様の参加をお願いいたします。

二 事業内容

「第四十三回同窓生の集い」

・期 日 九月二十四日(土)
・会 場 じよいあす新潟会館
新潟市中央区幸西

・講演会(二時十五分
～三時四十五分)

「新潟の県民性、その歴史的系譜」

講 師 伊藤 充 様

前新潟市教育委員会

教育政策監

・懇親会(四時～六時)

申込等詳細は十ページをご覧ください。

◆ 広報部 ◆◆◆◆◆

部長 本間アユ子

一 基本方針

○同窓会の活動や会員、大学等の様子を紹介することにより、同窓生の士気を高める。

○大学との連携をより一層密にした広報活動の推進を図る。

二 活動内容の概要

「教育新報」年間二回発行

○第一七一号(七月二十日発行予定)

巻頭言、花鳥風月

評議会の報告

二十八年度専門部動計画

支部・学科代表者会の報告 本部

役員、支部長、学科代表一覧

二十七年決算報告

二十八年度予算

学科紹介・教職大学院生の声

大学教官の異動及び大学のコーナー

「同窓生の集い」の広報

○第一七二号(二月二十日発行予定)

巻頭言、花鳥風月

「同窓生の集い」の報告

学校紹介(小・中・特別支援学校)

大学のコーナー

二十八年度会務報告

全学同窓会交流会の報告

先輩の声

大学教官との懇談会の報告

会員の広場

三 お 願 い

○大学や教職大学院の情報等を掲載したり、会員紹介を進めます。積極的な情報提供をお願いします。

◆ 組織部 ◆◆◆◆◆

部長 笹原ミヨシ

一 活動の重点

① 支部及び学科部との連携を図り、会員の連帯意識の高揚に努める。

② 準会員とその保護者に対して、同窓会活動への理解を得るように努める。

③ 支部等の組織の改編に向けた諸活動の検討を継続して行う。

二 活動の内容

① 支部長会の開催

平成二十八年六月十一日(土)

支部活動等の状況と課題、会費納入などの情報交換を学科代表者会と

同時程で別室にて行う。

② 学科代表者会の開催

平成二十八年六月十一日(土)

学科の状況と課題、学科の集いの開催などの情報交換を行う。

三 そ の 他

① 教職退職者への対応

② 学部入学生、卒業生、大学院入学生、修了生等への対応

※①②は事務局と連携して実施

支部組織、同窓会組織再編の検討

③

交流部は、今年度も次の活動を計画しています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

◆ 交流部 ◆◆◆◆◆

部長 小竹 智

一 新潟大学教育学部教職員と同窓会役員との「懇談会・懇親会」の開催

学部と現場の双方の現状を報告し、要望を述べ合いながら、交流を深め、意思の疎通を図る。

○大学・学部・教職大学院の現状と主な取組

○卒業生の就職状況と現場との連携

○同窓会の活動への提言 など

二 教育学部の学生・卒業生の就職活動への支援体制の整備

学生・卒業生の就職活動への具体的な支援について、大学・学部と話し合い、対応策を考え、連携・協力する。

三 会員への働き掛けと資質・指導力の向上

組織部と連携し、永年会員卒業生への働き掛けや交流の仕方について検討する。大学との連携を深め、会員の資質や指導力向上に資する。



支部・学科代表者会の報告

平成二十八年六月十一日(土)、評議員会に引き続いて、十五時から新潟教育会館において、支部長会、学科代表者会を開催致しました。

なお、両会は、別室にて同時に行いました。以下、会の概要をお知らせ致します。

支部長会

三十四支部中十一支部の支部長が出席されました。他の行事等と重なり、例年よりも少ない出席でしたが、活発な意見交換がなされました。

高橋いずみ副会長の挨拶の後、事務局より、支部活動の現状や会費納入状況などについて説明がありました。その中で、学校代表が未報告のところがあり、会費納入などのお願いに当たり、困っているとの話が出ました。それにかかわって、支部長からは、同窓会員把握や会費納入の流れについて質問がありました。年度末に各学校代表に名簿提出のお願い状を出し、その締切が

新年度の五月であること、その時点で新しい学校代表が把握できること、その後、七月の「教育新報」送付時に、学校代表に会費の振込用紙を同封し、会費納入をお願いするという説明がありました。そして、十一月末に、未納校の学校代表に再度納入をお願いし、その後、年明けに支部長に会費納入の督促をお願いしているとのことでした。それに対して、支部長からは、「対応をするためにも、もう少し早めに納入状況を聞かせてもらいたい。また、学校代表もできるだけ早く知りたい。」との要望が出されました。参加された支部長と事務局と質疑応答をしながら、今年度は、会費納入期限を夏休み中に設定し、支部長による督促を年内行うことになりました。

支部活動については、佐渡支部が、教育学部だけでなく佐渡全学同窓会と連携して、年一回集まっているとの紹介がありました。また、今年度予定されている支部活動計画について、一覧にしての報告が事務局よりありました。

それにかかわって、支部研修会や講演会等への各種支部助成金を大いに活用してほしい、該当するかどうかかわからない時には連絡してほしいとのお願いがありました。

学科代表者会

三十学科中九学科の代表者が出席さ



れました。高橋和人副会長の挨拶の後、各学科の代表者から一言ずつ話をしていただきました。大学の先生を囲んでの研修会や実践発表、卒論発表会、懇親会、名簿作成や広報誌の発行、同窓生の集い等、それぞれの学科の活動が紹介されました。多くの方から集まってもらうために、各学科とも、開催時期や時間、内容などを工夫していることが発表から窺う事ができました。質疑応答では、次のようなことが出されました。

- ・名簿の管理については、発送費等も含めると業者での管理が安いこともあるので、一考である。
- ・学生との顔つなぎを大事にしている。そのために、卒論発表会と懇親会を行っている。
- ・講演会を実施する時には、学部生にも魅力がある中身になるように工夫している。

また、名簿確認作業に助成がほしい、学科の会に出席する人の負担軽減のため助成金を増やしてほしい、などの活動を活発にするための支援拡大の要望が出されました。

(組織部長 笹原ミヨシ)

平成28年度 同窓会本部役員

〔任期は27～28年度〕

役 職	氏 名	支 部	校名など
会 長	臼杵 勇人	新潟東	東区教育支援センター
副 会 長	本間 正人	新潟東	中野山小学校
	村川 孝子	新発田	猿橋小学校
	高橋いづみ	新潟中央	万代長嶺小学校
	高橋 和人	長岡西	大島小学校
事 務 局	寺崎 巍	新潟西	教育学部同窓会事務局
	滝澤恵美子	新潟西	教育学部同窓会事務局
専 門 部	研 修 部	◎渡辺 真也	新潟秋葉 矢代田小学校
		○小泉 慎子	新潟中央 鏡淵小学校
		福田 愛日	新潟中央 義務教育課
		塚本 弓子	新潟中央 日和山小学校
	広 報 部	渡邊 祐哉	新潟北 早通中学校
		◎本間アユ子	新潟西蒲 松野尾小学校
		○金子 義則	新潟南 庄瀬小学校
		金子 公義	新潟西 中野小屋中学校
	組 織 部	佐藤紀代子	新潟西 山田小学校
		國井恒太郎	新潟南 大鷲小学校
		◎笹原ミヨシ	長岡西 下川西小学校
		○内木 正宏	新潟西 赤塚小学校
		永井 高志	新潟西蒲 越前小学校
		樋口 大輔	長岡西 上川西小学校
		加藤 雅晃	村 上 金屋小学校
役 職	氏 名	支 部	校名など
専 門 部	交 流 部	◎小竹 智	新潟秋葉 小合中学校
		○小泉 浩彰	燕 燕市教育委員会
		八坂 剛史	大 学 新潟大学教育学部
監 事	事	松井 裕美	新潟西蒲 新潟市立総合教育センター
		佐藤 文俊	新潟北 早通中学校
		島垣 武	新潟中央 新潟市歴史文化課
		中川 幸次	長岡東 自宅
顧 問	問	江口 直禎	新潟中央 自宅
		大関 雄策	新潟中央 自宅
		安藤 耕平	新潟西 自宅
		磯辺 浩昭	新発田 自宅
		藤井 保男	新潟東 自宅
		斎藤寿一郎	新潟東 自宅
		佐藤 重勝	新潟秋葉 自宅
		安達 徹	新潟西蒲 新潟市立総合教育センター
		白杵 勇人	新潟東 東区教育支援センター
		里村 俊夫	新潟西蒲 自宅
新 潟 大 学 全 学 同 窓 会	理 事	加藤 文子	新潟中央 特別支援教育サポートセンター
		小竹 正子	新潟西 自宅
		岡村 浩	大 学 新潟大学教育学部
		駒澤 一彦	新潟西 自宅
		カード事業	

平成28年度 同窓会学科代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国 語	伊藤 守	水原小学校
2	地 理	羽田 雄偉	新潟市立総合教育センター
3	歴 史 研 究 室	津野 治彦	新潟市立総合教育センター
4	経 済	古井丸裕三	矢代田小学校
5	哲 学	田口 秀行	上越教育大学大学院
6	社 会	土田 宏美	新道小学校
7	算数(親話会)	種村 公夫	湯沢小学校
8	数 学	橋谷田 登	新潟市教委教育総務課
9	物 理	茂呂 良彦	保田小学校
10	化 学	栗林 操	三川小学校
11	生 物	緒方 猛	新潟市教育委員会地域教育推進課
12	地 学	高橋 克哉	東小学校
13	英 語	佐藤 政志	下越教育事務所
14	音 楽	斎藤 隆	濁川中学校
15	美 術	永井 高志	越前小学校
16	保 健 体 育	渡辺 義光	新津第五中学校
17	家庭「萌木会」	津野 敏江	新潟大学全学教職支援センター
18	職 業 指 導	松村 明彦	東新潟中学校
19	教 育	山岸 真夫	自宅
20	教 育 心 理	小林 広紀	曾根小学校
21	技 術	渡邊 勝	石山中学校
22	特別支援教育	安藤 淑美	附属特別支援学校
23	養教特別科	三富 明美	羽生田小学校
24	幼 児 教 育	近藤 和徳	新津第一小学校
25	学社ネットワーク	小柳加奈子	田上町役場
26	生 活 科 学	眞邊麻依子	白根第一中学校
27	生活システム	大森 山	城西中学校
28	健康スポーツ	大口 良平	大町小学校
29	書 道	岡村 浩	新潟大学教育学部

平成28年度 同窓会支部長

地域	番号	支 部	支部長	校名など
上 越	1	上 越	仁田 秀三	南川小学校
	2	長 岡 東	三澤 淳伸	中越教育事務所
	3	長 岡 西	木曾 隆一	越路小学校
	4	三 条	五十嵐 晃	一ノ木戸小学校
	5	柏崎・刈羽	長谷川正人	鯨波小学校
	6	小 千 谷	小方 邦雄	片貝中学校
	7	加 茂	藤田 敏樹	須田小学校
	8	十日町・津南	木村 健司	川治小学校
	9	見 附	吉田 孝則	見附小学校
	10	燕	洪木 保之	粟生津小学校
	11	魚 沼	小栗 歩実	小出小学校
	12	南 魚 沼	前田 友晴	城内中学校
	13	弥 彦	坂井 育男	弥彦小学校
	14	田 上	原 秀栄智	羽生田小学校
	15	湯 沢	種村 公夫	湯沢小学校
	16	出 雲 崎	長尾 昭浩	出雲崎小学校
中 越	17	新 潟 北	川又 健司	太夫浜小学校
	18	新 潟 東	諸橋 智	下山小学校
	19	新 潟 中 央	坂井 純	万代長嶺小学校
	20	新 潟 江 南	内山 英紀	東曾野木小学校
	21	新 潟 秋 葉	田中 正栄	満日小学校
	22	新 潟 南	金塚 一明	根岸小学校
	23	新 潟 西	青木 清美	黒崎南小学校
	24	新 潟 西 蒲	齋藤 淳	中之口東小学校
	25	新 発 田	相澤 祐助	東豊小学校
	26	村 上	鈴木 正美	村上小学校
	27	五 泉	神田 武司	村松小学校
	28	阿 賀	六井 和幸	水原小学校
	29	胎 内	伊藤 博	胎内小学校
	30	聖 籠	佐藤 紹夫	蓮野小学校
	31	阿 賀	栗林 操	三川小学校
	32	関 川	今井 学	関川中学校
	33	粟 島 浦	新野 智	粟島浦小学校
	34	佐 渡	新発田 靖	両津小学校

平成27年度 一般会計決算報告

1. 収入の部

項 目	27年度決算額	27年度予算額	摘 要
1 繰 入 金	8,180,000	8,180,000	総合会計から繰入れ
2 雑 収 入	10,281	400	銀行利息、9/26学部集の集い（学部長より1万円）
合 計	8,190,281	8,180,400	

2. 支出の部

項 目	27年度決算額	27年度予算額	摘 要
1 会 議 費	132,276	120,000	会計監査、本部会、評議会、役員会等
2 旅 費	252,090	200,000	役員旅費他
3 助 成 費	505,200	500,000	学科助成、支部助成、同期の集い助成
4 事 務 局 費	601,801	600,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研 修 費	320,700	400,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広 報 費	1,268,341	1,600,000	機関紙発行・封入代、送料、HP、パンフレットNo.5作成
7 組 織 費	94,400	120,000	評議委員会昼食代、名簿メンテナンス代等
8 交 流 費	109,528	120,000	交流会企画運営費・助成、懇親会助成
9 大学・学生支援費	1,069,700	1,500,000	教員採用試験対策助成、同窓会カレンダー作成、卒業祝賀会助成
10 全学同窓会費	938,780	1,000,000	学部分担金、全学交流会助成、全学同窓会役員旅費等
11 渉外・厚生費	80,000	120,000	会場借入費、研究会・師範の会・卒業式等の祝儀、火災見舞金（在校生2名）
12 人 件 費	1,800,000	1,800,000	事務局報酬2名、HP手伝料
13 その他 予備費	86,940	100,400	備品（プリンター）・事務消耗品購入等、学部長との懇談会助成
合 計	7,259,756	8,180,400	

3. 残高の部 8,190,281円－7,259,756円＝930,525円は、平成27年度総合会計に繰り出します。

平成27年度 総合会計決算報告

1. 収入の部

項 目	27年度決算額	27年度予算額	摘 要
1 繰 越 金	38,761,049	38,761,049	
2 学校会員会費	3,209,594	3,200,000	3263名（前年度は3343名）
3 個人会員会費	286,400	220,000	322名（前年度は337名）
4 永年会員会費	9,649,516	10,000,000	323名（前年度は341名）
5 年度末繰入金	930,525	0	平成27年度一般会計残金を収入として計上
6 雑 収 入	5,602	3,951	銀行利息
合 計	52,842,686	52,185,000	

2. 支出の部

項 目	27年度決算額	27年度予算額	摘 要
1 一般会計繰出金	8,180,000	8,180,000	一般会計で年度末に出た残金は、総合会計へ戻す。

3. 残高の部 52,842,686円－8,180,000円＝44,662,686円は、平成28年度総合会計に繰り越します。

大学教官の異動

（昨年の七月以降）

◎学部を去られた先生

教授 五十嵐久人（健康スポーツ科）
山崎 健（保健体育科）
以上、三月末定年退職

助教授 山口 勇気（理科）

平成二十七年八月十六日
平成二十八年三月三十一日
（＊興治文子准教授の産育休に伴う臨時採用）

◎新しくおいでになった先生

准教授 天野 達朗（保健体育科）

田中 恒彦（教育心理学）

渡邊流理也（特別支援教育）

講師 佐藤 友哉（教育心理学）

教授 吉澤 克彦（教職大学院）
（＊小堀彩子准教授産育休に伴う臨時採用）

古田島恵津子（教職大学院）

特任教授 高橋 雄一（教職大学院）

准教授 井口 浩（教職大学院）

金子 淳嗣（教職大学院）

兵藤 清一（教職大学院）

（＊平成二十八年四月から「教職大学院」の開校）

◎昇任された先生

教授 有川 宏幸（特別支援教育）

平成28年度 一般会計予算

1. 収入の部

項 目	28年度予算額	27年度予算額	摘 要
1 繰 入 金	8,180,000	8,180,000	総合会計から繰入れ
2 雑 収 入	400	400	銀行利息など
合 計	8,180,400	8,180,400	

2. 支出の部

項 目	28年度予算額	27年度予算額	摘 要
1 会 議 費	130,000	120,000	本部会、会計監査、評議会、役員会等
2 旅 費	250,000	200,000	役員旅費、会員旅費
3 助 成 費	500,000	500,000	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事 務 局 費	600,000	600,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研 修 費	400,000	400,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広 報 費	1,600,000	1,600,000	機関紙発行・封入代、送料、HP、パンフNo.6作成
7 組 織 費	120,000	120,000	支部長・学科代表者会、名簿メンテナンス代等
8 交 流 費	120,000	120,000	交流会企画運営費、参加助成
9 大学・学生支援費	1,500,000	1,500,000	研修会参加助成、学生手当助成、卒業祝賀会助成等、カレンダー作成
10 全学同窓会費	1,000,000	1,000,000	負担金、全学交流会助成、運営委員旅費等
11 渉外・厚生費	100,000	120,000	祝儀、香典、会場借用費等
12 人 件 費	1,740,000	1,800,000	事務局報酬2名
13 その他予備費	120,400	100,400	
合 計	8,180,400	8,180,400	

平成28年度 総合会計予算

1. 収入の部

項 目	28年度予算額	27年度予算額	摘 要
1 繰 越 金	44,662,686	38,761,049	前年度繰越金
2 学校会員会費	3,200,000	3,200,000	会費－振込手数料
3 個人会員会費	220,000	220,000	会費－振込手数料
4 永年会員会費	9,600,000	10,000,000	会費－振込手数料
5 繰 入 金	0	0	*一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6 雑 収 入	4,000	3,951	銀行利息など
合 計	57,686,686	52,185,000	

2. 支出の部

項 目	28年度予算額	27年度予算額	摘 要
1 一般会計繰出金	8,180,000	8,180,000	



◎会費納入のお願い

二十八年度会費の納入をお願いします。県内教職員の皆様は、学校・機関単位での入金となりますので、代表者にお届けください。

代表者の方には大変お手数をお掛けしますがよろしく願います。

個人会員の方には、個別に振込用紙をお送りします。

◎学科代表・支部長の皆様へ

評議会にご都合がつかず、出席できなかった皆様に助成金を送りましたのでご確認ください。

◎全学同窓会交流会のご案内

今年も講演会と懇親会を計画しています。

期 日 十月二十二日（土）

会 場 ANAクラウンプラザホテル新潟

講師 野内隆裕氏（日和山五合目館長）

演題（仮題）「小路からのふるさと再生」

今年度の計画、運営は、教育学部同窓会が担当となっております。ご参加等へのご協力をよろしくお願いいたします。例年、懇親会の会費の半額を補助していますので、奮ってご参加ください。詳しい内容が決まりましたら、HP等でご案内いたします。

音楽科
の活動

「新生」音楽科同窓会に向けて

学科代表 斎藤 隆

(新潟市立濁川中学校)

学科代表を務めて二十二年目。初め、教育学部卒の附属新潟小学校音楽科が務める役と聞き、引き受けたものの、しばらくは「この同窓会」組織がよくわからなかった。私自身は、今は無き

「特別教科(音楽)教員養成課程」、所謂「高田の芸能科」が昭和五十七年

に完全統合された年の入学生。芸能科にも、別に同窓会組織があったことは

後年知った。当初様々な先輩に、この同窓会の経緯を聞いた。ただ、それを

概ね理解しても、学科の集いに人があまり来ないことに、変わりはない。今思えばそれも当然で、例えば、新潟

市小研、中教研、下越音研、吹奏楽連盟等の日頃、見慣れた音楽仲間から

同窓生だけが集まる意義が、おそらく見いだせなかったのが理由だろう。

学部の伊野義博先生などの音楽教育ゼミとタイアップした時もあった。こ

れも他大学出身者の参加が増え、同窓会的要素はむしろ不要になった。やが

て、教育学部同窓会が全学同窓会に編入され、永年会員なる制度で、これま

で事実上、教員中心に構成されていた「この同窓会」が一般的な同窓会に変

容しつつある。そして今、かつての学

部生き残り策、ゼロ免課程の廃止に伴い、生き延びてきた、「芸能科・特音」の末裔課程は消滅しようとしている。

「終わりは新たな始まり」でもある。

そんな思いから今年の三月十八日、「新生音楽科同窓会」に

向けた、久しぶりの学科の集いを開催し



た。当日は音楽科としては最後の大学

院生、中島美千子先生(新発田御免町小)の研究発表と質疑(右写真)、伊

野先生から最新の教育動向のレクチャーや、学部の田中幸治先生、高橋宣明

先生(中之口中)の学科の危機に関する話題提供等があり、続く懇親会まで、

久しぶりに大いに語り合い、充実した時を過ごすことができた。そう、これこそ学

科同窓会の原点。さらに音楽科の強みは教員以外のネットワークの

広さである。今こそ、学校の枠を超えた音楽

教育の情報交換組織として新生する時。卒業生の皆様、ご参加お待ちしております。



教職大学院生の声

新潟大学教職大学院

新潟市立木戸小学校在籍 木村杏子

(新潟大学教育学部平成12年度卒)

今年度からスタートした新潟大学教職大学院に入学しました。十三名の現職教員(うち三名は特定連携協力校勤務)と、学部新卒である六名のストリートマスターと一緒に学んでいます。青春時代を送った思い出深い母校で、また学ぶ機会をいただくことができ、幸せに思います。

教職大学院には学校経営と教育実践の二コースがあり、私は「特別支援教育」を核とした学びをしたかったので、教育実践コースを選択しました。これからの時代に求められる特別支援教育を推進していくには、特別支援教育の分野に限らず、学級経営や授業力、生徒指導や地域連携といった様々な面で高い実践力を身に付けなければいけないのではないかとずっと思い続けてきました。昨年、新潟大学が高度な教育実践力の基盤となる六つの領域を学びながら、自分自身の取り組み教育課題を導出し、実践と省察を積み重ねながら力を高めていくというカリキュラムの教職大学院を開設すると知り、「これしかない、この環境で学びたい。」と入学を志願しました。

教職大学院の特色として、特定連携協力校での授業の開講があります。週一回、上所小学校、浜浦小学校、小針中学校のいずれかで、共通の必修科目である八科目を履修しています。研究者教員と教員経験をもつ実務家教員がチームになって指導してくださいます。どの授業でも熱いディスカッションが行われ、皆で学びを深めています。もう一つの特色は、自分の在籍校での実習や課題研究です。週二回は在籍校に身を置き、自校や自分の教育課題を捉えて分析したり、検証したりしています。大学の指導教員が月に二回在籍校を訪れ、私の研究を指導し支えてくださるのも大変魅力です。

大学の先生方が熱心に指導してくださり、すばらしいカリキュラムの中で充実した学びを得られています。第一期生ですので、皆で創り上げていく面白さもあります。そして一緒に学び、切磋琢磨をする力強い仲間に出会えたことが何より貴重です。

これからの多様性に対応するには、教師もまた主体的・協働的な学びが必要であると考えています。二年間の学びの後に、現場でリーダーシップを発揮できるよう努めていきます。

大学のコーナー

筋肉をトレーニングする

副学部長 八坂 剛 史

私は保健体育・スポーツ科学講座の健康スポーツ科学課程に所属し、課程共通必修科目として体力トレーニング論と体力トレーニング論演習を教えています。授業のキーワードの一つに「筋肉」があります。筋肉は、体重の約40%（女性は約35%）を占める大きな組織です。最近の研究では、筋肉の量は転倒予防に関係するだけではなく、筋肉の量が低下すると糖尿病の発症リスクが高まることが指摘されています。さらにデンマークの研究者によると、年齢に関係なく筋肉の減少は死亡リスクを増加させるという報告もあります。そのような筋肉の第一の役割は、身体を動かすエンジンとしての役割があります。第二の役割は、重力に対する姿勢の維持です。第三の役割は、熱源「ヒーター」としての働きです。筋肉は、運動をしていなくても熱をつくり体温の維持に貢献しています。第四の役割は、力学的ストレスから身体を保護するということです。車に例えるとボディのように中の構造を守り保護しています。そして五番目に挙げられるのは、内分泌器官としての役割です。最近の研究では、運動することによって筋肉からある種の物質が分泌され、身体のような組織や機関に影響を及ぼすのではないかと考えられるようにな

つてきています。このような役割を持つ筋肉を強く太くするには、「メカニカルストレス」「代謝環境」「酸素環境」「ホルモン・成長因子」「筋繊維の損傷・再生」という5つの因子があります。この中でも特に重視すべきなのは、「メカニカルストレス」として過負荷の原理に従いトレーニングすることです。通常筋肥大を目的としたトレーニングでは、最大筋力の80%（8回の反復しかなできない重さ）というかなり重い負荷をかけて行います。このようなトレーニングを必要とするのは、アスリートのみならず怪我やリハビリに悩む人たちもいます。さらに我が国の超高齢化社会においては、高齢者の人達の筋肉の衰えをいかに防止するかということが深刻な問題となつてきています。このような人達にとっては、トレーニングをしたけれど重い負荷をかけられないというかなり高いハードルがあります。そこで本稿では、私が十八年間取り組んでいる加圧トレーニング®について紹介し、現状における課題に対応する一つのアイデアを提供したいと思っています。

加圧トレーニング®とは、腕や脚の付け根に専用のベルトで適正な圧を掛け、血流を制限した状態で行うトレーニングのことです。この加圧トレーニング®の特徴は、軽い負荷にもかかわらず重い負荷をかけたときと同じような筋肥大と筋力の向上ができることです。このことについて宝田らの研究では、平均年齢60歳の女性（健康者）を対象とし、上腕屈筋の加圧トレーニング【最大筋力の30%〜50%、3セット（所要時間10分）、週2回、4ヶ月】の効果が調べられた。その結果、肘屈筋の横断面積はトレーニング後に平均で約20%増加した。中には30%の増加を示した被験者も見られました。これほど筋肥大は、これまでに報告されたトレーニング実験の中でも例を見ないものでした。また、筋力も筋肥大にほぼ比例して増大したことから、機能的な筋肥大が生じたことが示されました。この実験では、対照群としてトレーニングを行わない群と高強度トレーニング群（最大筋力の80%）そして、低強度トレーニング群（最大筋力の50%）何れも3セットで週2回を4ヶ月継続した。高強度トレーニング群では、肘屈筋の断面積が平均15%向上し、低強度群では平均5%向上した。通常60歳の女性という被験者では、運動刺激に対する反応性がかなり低いと考えられるにもかかわらず、低強度の負荷でも大きなトレーニング効果が得られることが加圧トレーニング®の大きな特徴といえるでしょう。



左は加圧トレーニング後の、故 杉原輝雄（当時）。右は、八坂剛史

加圧トレーニング®の開発者でありトレーニングを指導されている佐藤氏によると、トレーニング開始当時の杉原選手の体力は、70歳代の一般男性と同じレベルまで衰えていたそうです。しかし、杉原選手は毎週1回欠かさず大阪から東京の佐藤氏のトレーニングジムに通い続けた結果、1年後には大腿周囲が7cm肥大し30歳代の体力に向上したようです。当時私がトレーニングを拝見させて頂いた印象では、全く年齢を感じさせない迫力のある内容で、まさにプロスポーツ選手という記憶があります。

今回は、加圧トレーニング®についてわずかでありますが紹介させて頂きました。加圧トレーニング®は、佐藤義昭氏により考案され、その手法や用語、器具、商標など様々な分野において、世界各国で特許や商標が取得されており、世界各国でその権利が保障されています。さらに、2004年には日本加圧トレーニング学会が発足し、現在は国際的にも学術的取り組みが進められています。詳細については、加圧トレーニング®のオフィシャルサイトをご覧ください。

景真之湊新潟

講演会

新潟の県民性、 その歴史的系譜

新潟市歴史博物館蔵

期日 平成28年
9月24日 土
13時30分 受付開始

会場 **じょいあす新潟会館**
新潟市中央区幸西3-3-1
☎025(247)9307

入場無料
どなたでも入場
できます

■ 講 師
現 新潟大学教育・学生支援機構
全学教職支援センター特任教授
前 新潟市教育委員会教育政策監
元 新潟市立新潟小学校長
伊藤 充 氏



日程	
13:30 ▶	受 付
14:00 ▶	開 会
14:15 ▶	講 演 会
15:45 ▶	移 動
16:00 ▶	懇 親 会
18:00 ▶	

懇 親 会

～「第43回同窓生の集い」のお誘い～

新潟大学教育学部の卒業生の方は懇親会に参加してください。
参加希望の方は、会場準備の都合がありますので、9月15日まで
にご連絡ください。懇親会費は3,000円です。

新潟大学教育学部同窓会事務局

TEL・FAX／025(263)6760

Eメール／dousou@ed.niigata-u.ac.jp

※火曜日から金曜日までの13:00から17:00の間をお願いいたします。

主催／新潟大学教育学部同窓会